

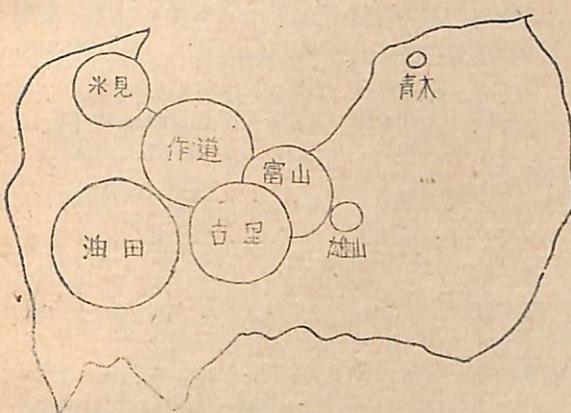
といえる。なお、氷見、油田は第1化期の発生量が多く、春から夏への環境抵抗は弱いために、當然中央部より発生の多くなる傾向を示しているが、雄山の如きは第1化期の発生量は少くても春から夏にかけての環境抵抗が弱いために

第3表 第1化期発蛾量

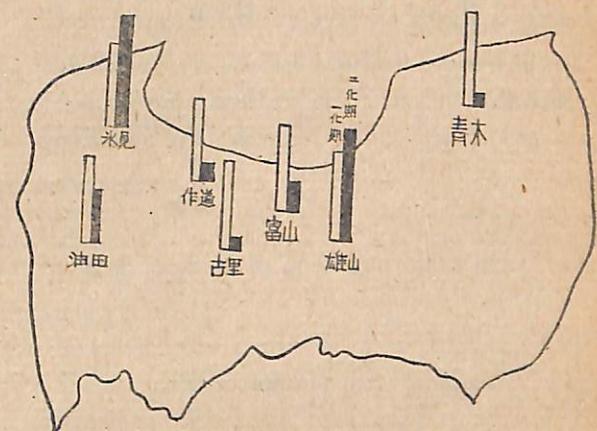
調査場所	油田	作道	古里	富山	氷見	雄山	青木	平均
誘殺蛾數	4177	3608	3316	2953	2386	973	467	2554.3

第4表 地域別春～夏の環境抵抗指数

場所	氷見	雄山	油田	青木	作道	富山	古里	平均
1化:2化の比率	1:1.32	1:1.32	1:0.63	1:0.37	1:0.24	1:0.21	1:0.12	1:3.53



第3図 各地に於ける1化期発蛾量模式図



第4図 各地に於ける春から夏の環境抵抗指縣模式図

(富山農試 昭28)

## 富山県に於けるニカメイチユウの豫察について

望月正己・田口吟

二化螟虫の発生予察について、気象要素と發蛾量との相関及びそれに基く関係直線式、並びに各

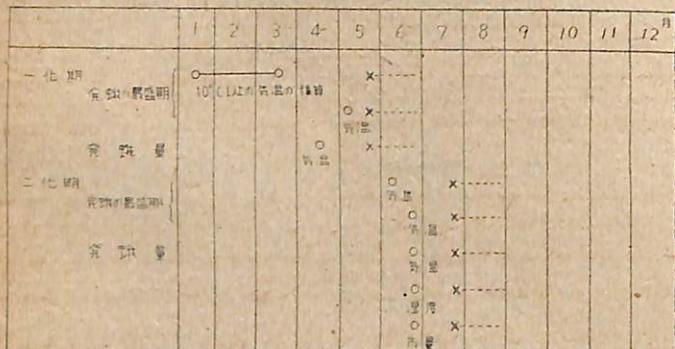
化期に於ける利用暦を要約すれば、第1表及び第2表の如くである。

第1表 富山県に於けるニカメイチユウの発生豫察方式

項目	関係諸因子	相関係数	関係式
第1化発蛾最盛期	(1) 5月1半旬の平均最高氣温	$r = -0.782 **$	$y = -0.43x + 12.4$

起算日 (イ) 5月6.5半旬 (ロ) 5月5半旬	(ア) 1~3月中旬迄の10時以上10時気温の積算	$r = -0.828 **$	$y = 9.61 - 0.06x$
第1化 発蛾量 前年2化の発蛾量に對する次年1化の発蛾量の比( $E_r$ )の算出	4月2半旬の平均最低氣温 (発蛾量を直接求める)	$r = 0.78 *$	$y = 890 + 684.2x$
第2化 発蛾最盛期 起算日 (イ) 7月28日 (ロ) 7月6半旬	(イ) 6月2半旬の平均10時氣温 (ロ) 6月6半旬の平均10時氣温	$r = -0.682 *$ $r = -0.672 *$	$y = 36.26 - 1.36x$ $y = 8.439 - x.2736$
第2化 ( $E_r$ )の算出	( $E_r$ ) 6月6半旬の平均10時氣温 ( $E_r$ ) 6月6半旬の溫度 ( $E_r$ ) 6月6半旬の降水量	$r = -0.93 *$ $r = +0.684 *$ $r = +0.85 **$	$y = 70.42 - 2.33x$ (但し16年を除く) $y = 0.806x - 41.58$ $y = 9.57 + 0.2457x$

第2表 発生豫察式の利用曆



## 備 考

○――○は予想の諸元の時期を示す。  
×……は発生期予想目標の時期及び量を示す。

(富山農試 昭27)

## 石川縣に於けるニカメイチュウの

## 発生豫察式 (第1報)

橋 田 久 衛

本縣でのニカメイチュウ発生豫察式は、昭和4年から26年のうち18, 19, 20年を除いた20カ年の資料によるものがあつたが、近年に於ては比較的

實用性に乏しいきらいがあつた。これは、大正12年より昭和5年ごろまでは2化多發型で、昭和6年から20年までは1化多發型、21年より現在まで